

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成25年4月解析分)

資料提供  
平成25年5月9日  
課名 健康対策課  
(感染症・疾病管理センター)  
担当者 西川・松尾  
電話(直通) 082-250-2041

## 1 疾患別定点情報

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成25年3月分(平成25年3月4日～平成25年3月31日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	6,419	13.95	7.80	↓	10	百日咳	8	0.03	0.08	
2	RSウイルス感染症	151	0.52	0.35	→	11	ヘルパンギーナ	0	0.00	0.03	
3	咽頭結膜熱	105	0.36	0.40	→	12	流行性耳下腺炎	46	0.16	0.67	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	400	1.39	2.18	→	13	急性出血性結膜炎	1	0.00	0.00	
5	感染性胃腸炎	2,169	7.53	10.31	→	14	流行性角結膜炎	38	0.49	1.03	→
6	水痘	283	0.98	1.32	→	15	細菌性髄膜炎	3	0.04	0.01	
7	手足口病	58	0.20	0.59	↘	16	無菌性髄膜炎	0	0.02	0.01	
8	伝染性紅斑	14	0.05	0.21	→	17	マイコプラズマ肺炎	8	0.08	0.25	
9	突発性発しん	124	0.43	0.50	→	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成25年3月分(3月4日～3月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	51	2.32	2.27	→	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	124	5.90	5.53	↗
20	性器ヘルペスウイルス感染症	16	0.73	0.80	↘	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	20	0.95	1.36	↑
21	尖圭コンジローマ	18	0.82	0.56	→	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
22	淋菌感染症	18	0.82	0.90	→	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.08	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

### 急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

●急増疾患 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象8疾患)について、県内177の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～26	
定点数	43	72	19	21	21	176

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	43	結核(43)〔西部保健所(6), 西部東保健所(4), 東部保健所(3), 北部保健所(4), 広島市保健所(17), 呉市保健所(3), 福山市保健所(6)〕
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症(1)〔東部保健所〕, パラチフス(1)〔西部保健所〕
四類	5	レジオネラ症(3)〔東部保健所(1), 広島市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, デング熱(1)〔広島市保健所〕, A型肝炎(1)〔広島市保健所〕
五類全数	11	風しん(9)〔西部保健所(1), 西部東保健所(6), 広島市(2)〕, 後天性免疫不全症候群(1)〔広島市保健所〕, ウイルス性肝炎(B型)(1)〔呉市保健所〕

## 3 一般情報

### (1) 風しんの流行に注意しましょう！！

風しんは「三日はしか」とも呼ばれ、風しんの症状は子どもでは比較的軽いですが、まれに脳炎、血小板減少性紫斑病等の合併症が2,000人から5,000人に1人くらいの割合で発生することがあります。

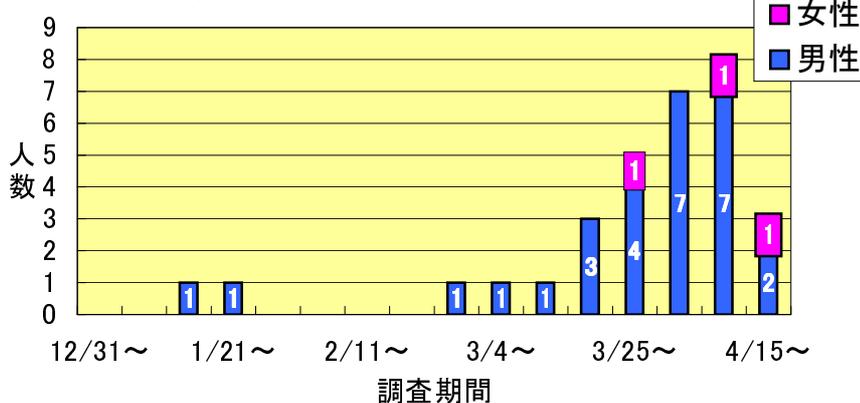
また、**妊娠(特に胎児の器官形成が体内で行われている妊娠初期)した女性が、風しんに対する抗体を持っていないまま、初感染で風しんウイルスに罹患すると、胎児に先天異常をもたらすことがあります。これらの障害を先天性風しん症候群**といいます。低出生体重のほか、白内障、難聴、心奇形(動脈管開存症、心室中隔欠損症、肺動脈狭窄症など)、中枢神経障害(精神発達遅延、脳性麻痺、小頭症等)など永久障害を残すものと、血小板減少性紫斑病、肝脾腫、肝炎、溶血性貧血など生後一過性に認められるものがあります。

昨年、広島県での流行はみられませんでした。全国的に風しん報告数は2,353件(暫定値)と過去5年間で最も多い報告数となりました。また、**平成25年の全国の風しん報告数も第16週末(4月21日)までに4,848件となり、平成24年の同時期と比較し、約30倍となっており、特に関東及び関西地方において報告数が急増しています。**

広島県では、報告数が第16週末(4月21日)までに31例となり、昨年の報告数の12件を大きく超えています。**患者は、特に30～40代の男性に多く、その中には予防接種を受けていない人が多いと考えられます。**

風しん報告数の増加傾向は数年持続することが知られており、今年も風しんや先天性風しん症候群の増加傾向が持続することが懸念されており、流行地域へ行かれる時は注意が必要です。

広島県にける風しん報告数の推移  
(平成24年12月31日～平成25年4月21日)



広島県にける風しん報告数(累計)

(H25.04.21現在)			
	男性	女性	計
10代未満	0	1	1
10代	0	0	0
20代	3	1	4
30代	13	0	13
40代	11	0	11
50代	1	1	2
60代以上	0	0	0
計	28	3	31
性別割合(%)	90.3	9.7	

- ・ 風しんの予防に最も有効な方法は、予防接種を受けることです。市町の実施する定期予防接種の対象者は早めに予防接種を受けましょう。
- ・ **これまで風しんに罹っていなかったり、予防接種をしていない女性の方で、これから妊娠する可能性のある方は、将来の妊娠に備え、任意での予防接種を受けることをお勧めします(※男性の方も予防接種を受けることをお勧めします)。**

なお、詳しい情報は、こちらのホームページをご覧ください。

- 厚生労働省ホームページ「風しんについて」  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/)
- 広島県ホームページ「風しんの流行に注意しましょう」  
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/fushin-zouka.html>
- 広島県ホームページ「予防接種は受けられましたか？」  
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hecc/hidsc-index.html>